みんぱく

国立民族学博物館・立命館大学　学術交流協定締結記念　国際シンポジウム

Gastronomic Science and Food Museums of the World

世界の食文化研究と博物館

2014年12月6日(土)・7日(日)｜国立民族学博物館 講堂｜ 定員：300名(先着順)〈参加費無料〉

[プログラム] 12月6日(土) 13:00〜16:45「世界の食文化研究」　12月7日(日) 10:00〜17:00「表現される食(食と博物館)：東アジアを中心に」

[問合せ先] 〒565-8511　吹田市千里万博公園 10-1
国立民族学博物館 民族社会研究部 教授　朝倉敏夫
Tel. 06-6876-2151　Fax. 06-6878-7503
Mail. food@idc.minpaku.ac.jp

〒525-8577 草津市野路東 1-1-1
立命館大学　国際食文化研究センター 事務局長　井澤裕司
Tel. 077-561-5047　Fax. 077-561-5047
Mail. syoku@gst.ritsumei.ac.jp

[主催] 国立民族学博物館・立命館大学
[協賛] 一般社団法人日本フードサービス協会
NPO法人日本食レストラン海外普及推進機構（JRO）
公益財団法人江頭ホスピタリティ事業振興財団
[協力] ル・コルドン・ブルー日本校

国立民族学博物館　RITSUMEIKAN

交通のご案内

●大阪モノレール

「万博記念公園駅」徒歩約 15 分
＊ 自然文化園窓口で、当館の観覧券をお買い求めください。同園内を無料で通行できます。
「公園東口駅」徒歩約 15 分
＊ 自然文化園（有料区域）を通行せずに来館できます。

●バス

[近鉄バス]（阪大本部前行き）阪急茨木市駅から約 20 分、JR 茨木駅から約 10 分、「日本庭園前」下車、徒歩約 13 分

●乗用車

万博記念公園の駐車場（有料）をご利用ください。最寄りの「日本庭園前駐車場」より徒歩約 5 分
＊「日本庭園前ゲート」横にある当館専用通行口をお通りください。

世界の食文化研究と博物館

国立民族学博物館と立命館大学は、2014年4月10日に学術交流協定を締結しました。この協定締結を記念して、世界の食文化研究と博物館の役割に関する国際シンポジウムを開催することにいたしました。

「食」は人類の生存にとって原始からもっとも大きな問題でありなおかつ、食と環境、生態、安全、健康との関係は人類にとっての今日的な問題でもあります。

しかし、「食」を「食は文化である」という視点から食文化研究が始まったのは、日本においては、1980年代になってからでしょう。「食文化」という言葉が一般に使われるようになったのも、ほぼ同時期でしょう。

今回のシンポジウムでは、それからおよそ30年がたった今、日本の食文化研究がどのような展開をみせてきたのか、その足跡と現状を明らかにするとともに、世界においては食文化の研究がどのように進められているのかを俯瞰してみたいと考えます。

そして、食文化を研究するうえで博物館がどのような貢献をしているか、まずは東アジアを中心に、その現状を具体的な事例を通して報告していただこうと思います。そのことによって、今後、博物館が食文化を研究するうえで果たすべき役割は何かを考察してみたいと考えます。

本シンポジウムのねらい

- 「食は文化である」という再認識
- 「食」を文化として研究する意義
- 「食文化研究」のあり方
- 食の博物館ネットワーク構築
- 食文化に関するアーカイブの所在確認
- 食をどのように展示するか

12月6日(土)「世界の食文化研究」

13:00～ 挨拶　須藤健一(国立民族学博物館・館長)
13:10～ 祝辞　川口清史(立命館大学・学長)
13:15～ 祝辞　イタリア総領事／中国総領事／韓国総領事
13:30～ 趣旨説明　朝倉敏夫(国立民族学博物館・教授)

13:40～ **日本の食文化研究**
石毛直道(国立民族学博物館・名誉教授)

14:10～ (休　憩)

14:30～ **The science and the culture of food translated into practice through taste: traditional diets**
Gabriella Morini(イタリア食科学大学・助教授)

15:10～ **Reviews of Food Studies in China Since 1980s(中国的食学研究概況)**
趙栄光(浙江工商大学・教授)

15:50～ **Food Culture Research in Korea**
趙美淑(梨花女子大学・教授)

16:30～ 挨拶　井澤裕司(立命館大学・教授)

16:45　終了予定

12月7日(日)「表現される食（食と博物館）：東アジアを中心に」

10:00～ 挨拶　朝倉敏夫(国立民族学博物館・教授)

日本の事例　司会　河合洋尚(国立民族学博物館・助教)

10:10～ **国立民族学博物館における食文化の展示**
池谷和信(国立民族学博物館・教授)

10:25～ **公益財団法人 味の素食の文化センターの活動のご紹介**
津布久孝子(味の素食の文化センター・専務理事)

10:40～ **食を"遊びながら学ぶ"体験型博物館 ～カップヌードルミュージアムについて**
筒井之隆(安藤百福発明記念館 <愛称：カップヌードルミュージアム>館長)

10:55～ **キッコーマン国際食文化研究センターについて**
斉藤文秀(キッコーマン国際食文化研究センター・センター長)

11:10～ **「日本食文化」小浜から世界へ ～御食国若狭おばまの食のまちづくり**
中田典子(小浜市政策専門員<食育>)

11:25～ コメント▶菅瀬晶子(国立民族学博物館・助教)

11:40～ (昼　食)

韓国の事例　司会　林史樹(神田外語大学・教授／民博・客員教授)

13:00～ **Food Culture Larchiveum of Nongshim**
李貞姫(株式会社 農心食文化研究チームR&DDiv.チーム・マネージャー)

13:30～ **韓国における『食』博物館の現状と特徴**
韓福眞(全州大学校・教授)

14:00～ コメント▶周永河(韓国学中央研究院・教授)

14:15～ (休　憩)

中国の事例　司会　韓敏(国立民族学博物館・教授)

14:30～ **北京的宮廷御膳与博物館**
賈蕙萱(北京大学国際関係学院・原教授)

15:00～ **現代中国食文化博物館に関する考察 ～杭州料理博物館(Chinese Hangzhou Cuisine Museum)を事例として**
劉征宇(総合研究大学院大学・博士課程)

15:30～ コメント▶**食事の快楽を持続させる認識及びその技術**
関剣平(浙江農林大学・副教授／立命館大学・客員教授)

15:45～ (休　憩)

総合討論　司会　小長谷有紀(人間文化研究機構理事／民博・併任教授)

16:00～ **文化心理学から見た食の表現**
サトウタツヤ(立命館大学・教授)

16:15～ **ヨーロッパにおける食文化研究の発展 ～『SIEF Ethnological Food Research Group』を中心に**
南直人(京都橘大学・教授)

16:30～ **企業博物館の視点から**
中牧弘允(吹田市立博物館・館長／民博・名誉教授)

16:45～ 挨拶　井澤裕司(立命館大学・教授)

17:00　終了予定

＊海外からの研究者は母国語で発表し、日本語の逐次通訳がつきます。
＊プログラムは変更となる場合があります。ご了承ください。